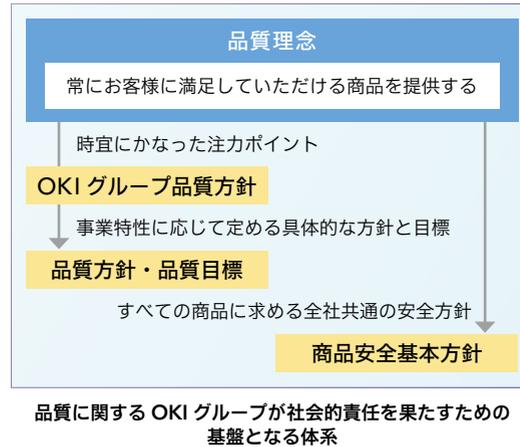


品質マネジメント

基本的な考え方

OKIグループの各企業および役員・社員は、OKIグループ企業行動憲章および行動規範を念頭にOKIグループの品質活動の源となる考えである「品質理念」の具現化に努めています。また、永続的な考えである「品質理念」に対し、時宜にかなった注力ポイントを示すものとして「OKIグループ品質方針」を定め、品質保証活動のベクトルを合わせています。

OKIグループ品質理念／商品安全基本方針
<https://www.oki.com/jp/sustainability/social/quality/index.html>

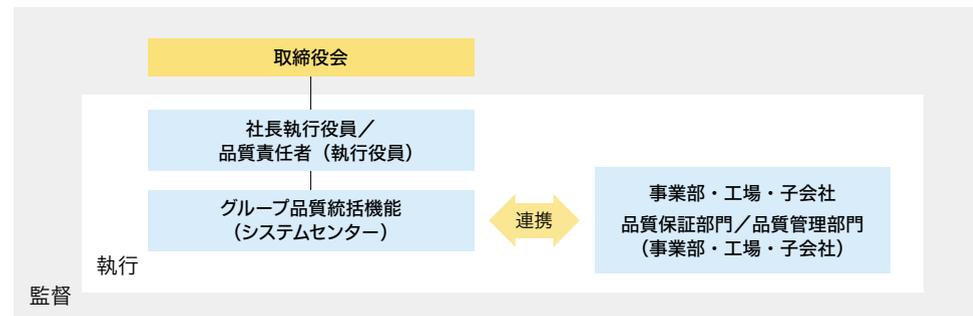


体制

OKIグループにおける商品の品質保証は、商品ライフサイクルに関するすべての部門・従業員の活動によって実現しています。品質責任者のもと、グループ品質統括機能では品質コンプライアンス推進活動やグループ内の品質部門間のコミュニケーション活性化施策などグループ共通で取り組む品質活動の企画・推進を行っています。また、事業部・工場およびグループ会社の品質部門では各事業分野の商品の品質維持・向上に向けた施策を実施しています。さらにこれらの部門はお互い連携してグループ全体の活動を推進しています。

OKIでは、2023年度の会社組織の変更にあわせて、これまでOKIの事業本部ごとに構築していた品質マネジメントシステム（以下QMS）を統合し、業務プロセスの統一や業務効率の向上など組織全体のパフォーマンスの向上を図っています。

品質マネジメント体制



主な取り組み

① QMS有効性向上（MSと組織の一体化）

事業本部ごとに構築していたQMSを2023年9月に統合しました。

狙い	QMS体制の整備、マネジメントシステム認証と会社組織・体制の一体化
効果	QMSの有効性向上による品質の維持・向上、外部審査回数の削減：年5回から年1回

② 品質コンプライアンス推進（品質不正防止）

品質コンプライアンス推進活動計画に基づき、各種活動を継続的に実施しています。

主な活動としては、社内第三者部門が実現場に出向き調査を行う「現場調査」や、自部門で計画して自ら改善を行い自浄力向上を図る「品質コンプライアンス点検」、さらに全従業員に対して「品質コンプライアンス教育」を行っています。

狙い	品質コンプライアンス推進活動により品質不正を防止
効果	グループ全体の品質不正 0件

③ 品質コミュニケーション

品質月間（11月）に合わせ、社長品質ダイアログ、品質責任者（CQO）ダイアログ、品質部門ダイアログなどを実施しています。

狙い	あらためて考える機会である品質月間に、経営層および品質部門とのコミュニケーションの場を設け、品質関連の双方向コミュニケーション（社内呼称ソウコミ）の活性化・人的ネットワークの構築を図る
効果	気兼ねないディスカッションを通じて、品質に関する経営層の考え方・想いを理解。また、品質部門間の施策共有、部門の壁を越えたコミュニケーションの促進

④ 各事業分野の製品・サービスの品質維持・向上

事業部・工場および子会社では、設計開発から製造および保守まですべてのプロセスにおいて、継続的な改善活動により、常にお客様に満足いただける商品の品質維持・向上に努めています。

詳細はWebサイトをご参照ください。 <https://www.oki.com/jp/sustainability/social/quality/index.html>

品質コンプライアンス推進活動体系図

